

特集 : 学生生活の今昔
第1回<昔>

◆表紙絵◆
◆表紙デザイン◆
平岡 良介
(大学 49 期)

■ <巻頭言>40 数年前の学生時代 / 増田 征二 1

■ 学生生活の「昔」: アンケート大学 10 期編
/ 集計 : 寺本 司 2

■ 府立大学と私 / 塙 友雄 13

■ 海技大学校での船舶講義 / 神田 修治 14

■ グラスゴーから... 元気にしています / 片山 徹 17

■ 理事会報告 19

■ 会計報告 20

■ 平成 14 年度 海洋システム工学科
博士・修士論文ならびに卒業研究のテーマ 21

■ 会員録 update 23

■ 編集後記 裏表紙

「鷗朋」編集委員 岩崎 泰典(大学 20 期) 岸 光男(大学 25 期) 竹田 太樹(大学 30 期) 三宅 成司郎(大学 30 期)
野口 利仁(大学 33 期) 池田 和外(大学 35 期) 坪郷 尚(大学 39 期) 片山 徹(大学 41 期)
牧野 功治(大学 41 期) 中谷 直樹(大学 45 期) 奥村 英晃(大学 46 期) 田角 宏美(大学 47 期)

40数年前の学生時代

会長 増田 征二 (大学10期)

鷗朋第5号は「学生時代の今昔」の特集ということで、編集委員がアンケートを複数の期の方にお願いましたが、スペースの都合で大学10期のみを掲載することになりました。従って、内容は「40数年前の学生時代」になっております。

大学10期といえば昭和33年から37年の4年間の学生時代です。昭和33年には長島選手が巨人に入団し杉浦投手が南海に入団した年で、先代の若乃花が横綱になり、日本も貧しさを脱し、これから高度成長に入ろうという夢のある時代でした。

当時の府大の学生はほとんどがお金がなく清貧な学生生活で、しかも船舶工学科はもちろん、工学部全体にも女学生がおらない時代でしたから、部活もアルバイトも遊びも大変地味なものでした。

ともかく皆さん良く授業には出ておりましたが、だからといって(一部の学生を除いて)特に勉学に励んだというわけでもなく、単位を取るために出席していたようなものです。今だったらほとんどの者が落第か就職できないと思いますが、それでも卒業し、就職できたのですから結構な時代だったのでしょう。補足しますが、今の学生はわれわれの時代よりはるかに真剣に勉学に取り組んでいるようです。(ただし、社会に出てからの活躍は、勉学に励んだかどうかとは直接関係は無いように思われますが。)

では、大学の4年間は何のためにあったのか、という疑問には今回の特集を読んでも私には納得のいく答えが出てきません。ただ、社会に出てから府大の先輩や後輩、また4年間ほとんど生活を共にした20名のクラスメートとの交流は大変大きな財産になっております。

このことは、我田引水になりますが、鷗朋会の存在の大きさを感じさせます。

皆さんもこれを機に、自分の学生時代を思い起こし、それが自分の人生においてどのような役割を果たしたのかを考えて見られるのも一興かと思えます。また、その意味でも、10年前、20年～50年前の学生時代が特集されると、学生気質の移り変わりも見られて面白いものになると思えます。

今後の編集委員の活躍を期待いたします。

「自分たちは、あの頃どんな学生生活を送っていたのかな？」と昔を懐かしく思い出すとともに「それは、今の学生生活とはどれだけ違うのかな？」という素朴な疑問を解決すべく、下記のようなアンケートを卒業生の方々にお願いしました。本当の狙いは、今の学生生活がどんな状態にあるのかという学生生活の実態を浮き彫りにすることでしたが、アンケートに回答頂いた方にとっては昔の古い記憶を蘇らせるために役だったのではないかと考えます。

アンケートは、大学周辺にての生活を中心とした以下に示す項目を設定し、記入形式で行いました。

- (1) 大学の学費や講義内容等について
- (2) 寮生活/下宿生活の「住」の状況
- (3) 学食・生協などの「食」の状況
- (4) 娯楽について
- (5) アルバイトについて

今回は、**大学10期**の皆様から頂きました回答を報告します。

アンケート取り纏め 大学10期 寺本 司

10期生は20人で昭和33年4月入学、37年3月卒業、卒業後41年が経過した。昨年は40周年記念として北海道旅行を実施、旧交を温めた。全員元気でシルバーエイジを送っている。今回の企画に対し、クラスメイトからのアンケートを取り纏めました。

<アンケート回答者>

磯川、稲垣、大城、佐伯、須藤、中野、永野、橋本、日比、堀江、増田、持田、安井、寺本

<アンケート項目>

●「教室・カリキュラム」について●（理由もコメント下さい）

－学費はいくら？（例：月 xx 千円, xxx 万円/年, 等々）

回答：授業料は年間 9,000 円（大阪府民は 6,000 円？）が大多数。中には 700 円/月（大城）の記憶の人もあり。
ちなみに奨学金は 3000 円/月（稲垣）

－記憶に残っている講義名（例：体育実技 I, 船舶設計製図, 等々）

回答：

1. 教養課程

- ・ドイツ語 殆どの人が欠点であったようだが何とか教授の慈悲で合格（堀江）
・良く出来なくて（永野）・発音に魅せられたが、単位をとるのに苦慮しました。（持田）
- ・数学 分からないと言う理由で覚えているのは、トウカクシャゾウ（等角写像）の講義。「トウカクシャゾウの美しさにうっとりしたもんだ」との先生の小生を諭す言。（安井）
- ・文学 病気前、ジイドを熱烈に語る「文学」の講義に感動。1年程ジイドにハマッタ。
お陰で期末試験は「優」。自発的に勉強した唯一の学科。工学部のくせに、文学を選択する奴があるかと先輩（33 年卒）に文句を云われた。逆に、全く理解出来なかったのが「社会学」。試験当日、南海電車の中で読んだ副読本の部分が出て、チップインバーダーの様な「優」。どこかに行ってしまったが、この副読本があれば読み直してみたい。病後はチンタラ流でロクに勉強せず後で悔やむこととなった。（稲垣）
- ・物理学 良い印象が残る講義はありません。驚いたのは、大教室での物理の授業で、ほとんどの学生が居眠りか私語をしているのに、教授は注意をするわけでもなく、淡々と講義を進めていたこと。私も講義の内容はお経を聞いているようで全く理解していなかった。これが大学の講義かと大いに失望した。（増田）

2. 専門課程

- ・船舶算法（佐伯）、・ほとんどの人のそろばん集計をやらされた（橋本）・田中教授は開口一番、造船屋に数学は必要ない。算数を間違いなく処理せよと言われた。顧みて正に真実でした。講義は内容が充実し、先生の熱意がひしひしと伝わってくる立派なものでした。（磯川）
・船舶設計製図 図面提出締切日が 4 日後に迫り 3 日徹夜して仕上げ提出した。提出日の朝先生から「熊みたいな顔をしとるな。どうしたのか。」と問われた。その後早めに物事を処理するように心がけているが、間近にならぬとやらない習性は直りそうにない。（須藤）
・流体力学（大城）
・船体運動力学 テキストは英文で輪講だったので翻訳に四苦八苦した。菱田教授の講義は難解だったが、なんとか理解したいという意欲が湧く授業であった。（磯川）
・鋼船工作法（中野）（寺本）

赤崎学長 1962

—印象に残っている先生は？（例：線形代数の先生(格好が汚かったなあ), 等々)

回答：

・赤崎先生：入学前から存じ上げていた有名な先生で、授業に憧れた。しかし、学長だったためか一度だけの講義だったので、多分記念講演だったと思う。講義はプロペラの翼型のチャートだったか？舵の計算式も有名だったので興味があり、入社後も参考になった。（日比）

・岩佐先生ことチンパさん：リベットとコーキングの関係の説明(橋本, 中野, 堀江)

・「いいか, おまえ達」が口癖。リベットの現場施工の説明で居眠りの学生めがけてリベットならぬチョークが飛んできたこと。私は居眠りしていませんよ。（寺本）
・病後を何くれとなく気を遣って頂いた。（稲垣）
・あの古い懐かしい講義と、非常に頑固ながら、実直な先生だなと印象に残っている。卒業後も、長い間年賀状の交換を致しました。（持田）
・私の友人の父親だったこともあって親密感があつた。（日比）
・実演を交えての熱心な講義。（須藤）

・菱田先生, (磯川, 大城)

・田中先生 (磯川) ・Sink と Source の演習で試行錯誤時の的確なヒントと横揺れに於ける Bilge Keel による Virtual Mass の説明(須藤) ・水槽掃除に関して(永野) ・恐かった。いまだにシンク/ソースの夢を見る。（稲垣）
・講義によく遅れ、水槽実験時の合間には、時折トランプをしたり、清掃時には、泳いだりし、相当憎まれていたと思うが、特別ひどく怒られることもなく、なんとなく好感のもてる先生だった。（持田）

・田口先生 事にあたっては philosophy を重視される姿勢(須藤) ・講座(設計)の関係もあつて、最も身近な先生でした。（日比）
・在学中は個人的に親しくなった先生は居りません。小学校・中学校・高校と必ず1人は好きな先生、親身になって相談に乗ってくださった先生が居ったのに不思議です。こちらから打ち解けていかなかったからかもしれません。但し、卒業後はいろいろな先生と親しくなりました。特に、編集委員をや

って以降、田口先生、平野先生にはいろいろお世話になりました。（増田）

・福本先生 船体構造理論ではアイバイワイ(I/Y)が口癖で、口角泡を飛ばして熱心に講義されたのを思い出す。（寺本）

・外山先生 「安井よ、もう学校を辞めた方が良いぞ」とのありがたなお言葉を頂き、少々発奮して何とか卒業出来た。（安井）

・池田先生 池田先生には南のアルサロに連れて行ってもらった事もある。（稲垣）
・先生の自宅を訪問、友達・先輩感

<船舶教職員 1962>

覚でした。部屋にあったマネキンやペンダントは不思議な感覚でした。(日比)

・われわれの卒業後、先生は船体各部名称図を刊行され、就職先で入手、全国の船舶工学関係者やマニアの間ではベストセラーと聞き、立体図や解説のすばらしさに驚嘆しました。私の会社では船殻現場作業員用に工作図なるものが作られたが、この本が原型ではないかと感じた次第。(寺本)

・平野先生 (磯川, 大城, 増田)

・吉田先生 教養の選択科目東洋史で老子の「無」の思想の説明があり、その後の部活の練習に役立ったこと(須藤)

・河嶋先生 応用数学 I の試験でリーマンサーフェスの答案を書いた時試験中に声をかけられ、初の経験で戸惑ったこと(以上須藤)



<白鷺門 1962>

—好きな(お気に入りの, 印象強い)教室は? (例:工⑧大講義室, 等々)

回答:

・木造製図室

・何と言ってもこの製図室。大学生生活のほとんどをここで過ごしたような気がする。(増田)(寺本)(橋本)(堀江)(中野), ・前の席の清岡兄が振り向いていろいろと人生について教えてくれた。(佐伯)

・休憩時のヘボ碁対局が楽しかった。(須藤), ・製図室と英国製と言われていた線図用紙。書いては消しボロボロになった。33年頃、製図室で流行っていた曲はベラフォンテのバナナボート。(稲垣), ・製図は真面目に描いてなかったが、皆さんと話し合える場所として(持田)

・船型試験水槽(磯川)(永野)

—その他(過去を思い出し, フリーに記述)

記述:

・製図室での休講時の囲碁対局や製図室に社交ダンスのステップを描いて女子学生にもてたく練習を重ねたこと(堀江)

・製図室で、ラジオのブラザーズフォーの曲を聞きながら、製図や囲碁を楽しんだのが懐かしく思い出される。(増田)

- ・浮心計算等に使った「タイガー計算機」の記憶が鮮明だ。掛け算割り算は簡単だが、平方根の計算も出来るようになり得意だった。(電卓ならルート一発が、タイガー計算機では結構複雑) 先日東京の古道具屋で見つけたが100万円の値札が付いていた。坪郷^註先生:教室に5~6台残っていませんか、同窓会の資金になりますよ。(佐伯)
- ・線図をごまかしたら、重心位置が30cm程ずれてしまい、池田先生に泣きついて勘弁して貰った。タイガー計算機が懐かしい。(稲垣)
- ・10人に一人位の割合で存在する勉強しないぐうたら人間であった。クラブ活動とマージャンと安酒飲み会と堺東でのスナックで金と時間を浪費して過ごし、3年から4年への進級をかるうじてパスしたというひどい思い出がある。その代わり就職してからは必ず毎日2時間位何年間も独学で勉強した。(安井)
- ・「物理」の単位を取得できず最終学年まで持ち越し卒業の成否がかかった。就職も決まり冷や汗をかいたこと未だに夢を見る。(中野)
- ・父親が小さな工務店を経営していたので私は学業より家の仕事の方に目が行ってしまって、おまけに空手道部に入って放課後練習ばかりしていたのでろくに成績も上がらず、最低の単位でようやく卒業した。日曜祭日はもちろん各学期末後の休みも家の仕事を手伝うのが当たり前で、卒論の時等は担当の先生や同期の仲間に変な迷惑をかけたことを後悔している。(大城)
- ・英文がなかなか思うようにスラスラ読めず、3回生になっても朝一の英語の授業を受けたこと。金剛山、葛城山へのハイキングはクラス略全員参加の親睦会で親交が深まったこと。九州旅行の際、平戸の旅館でのザベリング及び三菱長崎見学後の夜、少しハシヤギ過ぎて夜遅く全員で宿屋へ帰り、宿のオヤジに叱られたこと。(須藤) ・製図に苦労した事(永野)
- ・製図にはバツェンと重しの鯨が必需品。カーブを引くのに細いバツェンが少なく、私の合成樹脂のバツェンが結構重宝がられた。心当たりの人いませんか。
- ・卒研では第2講座(船型学)を選択。いわゆる水槽屋。このグループは体を動かすのが得手な?ものが多かったように記憶している。年に1回水槽の掃除があり、泳げたのは役得だが緑色の水槽に潜り、プールの底に落とした物品の引き上げや掃除をした。夏休みの暑い一日だった。(以上寺本)
- ・製図がはかどらず、夏休み返上で、下宿に重い「クジラ」を持帰り暑い小さな部屋で、パンツ一枚で頑張り提出できたこと。(持田)
- ・船型試験水槽では牽引車に乗ってモデルを曳航したり、休憩時に台車の上でコーヒーブレイクを楽しんだりと愉快的思い出です。(磯川)

●「至誠寮および下宿」について● (寮生/下宿者だった方対象)

一寮(下宿)の大きさ(規模)

回答:

4.5畳(増田), 3畳和室(安井), 10数名の学生アパート(中野), 学生寮は3棟あり、各棟3Fで30室(記憶あやふや)同一敷地内に、先生・職員の家族寮も有り。(永野), 学生アパートは(約16部屋位:1部屋3畳)(持田)

一 下宿先の名前やその場所は?

回答:

1・2回生は大学近くの田んぼの中にぼつんと立っていた日の出荘。3・4回生は北野田の高級住宅街の民家。(増田), 楠

木荘(安井),「宝荘」学校/中百舌駅の間(中野), 2 回生まで「堺東」の個人下宿(2 年先輩の 2 人共), 3 回生以降は学校近くの学生アパート, 名前は「浪速荘?」忘れました。皆さん方が良くご存知かも(持田)

一寮費(下宿代)はなんぼやった?

回答:

2 食付で 6 千円。(増田), 月 1 万円で朝夜の賄い付き。炊き込み御飯のときはゲップゲップいいながら, たらふく食べていた奴がかなりいた。(安井), 下宿代 2 食付き ¥10, 000-/月。(中野), 学生寮費 2 食付 ¥3000.-/月(記憶不確かです)(永野)

一部屋割(何人部屋?)

回答:

両方とも和室の個室。(増田) 20 部屋位ある学生部屋で, すべて 1 人部屋。(安井), 1 人・各部屋畳 3 畳 + 押入れ + 靴脱ぎ(計 4.5 畳)(中野), 1 室 4 人, 両サイドに 2 段の押入れタイプのベッド(永野), ・1 人部屋(持田)

一部屋内部の様子はどうだった? (きれい, きたない? 整理整頓?? 快適性は?)

回答:

- ・部屋の中には机がひとつあるだけでほとんど何も無いため, 散らかりようがない。(増田)
- ・整理整頓するだけの持ち物が無く汚くは無かったが匂いはした。(安井)
- ・客観的には汚かったと思うが, 当人には快適・・・。(中野)
- ・部屋には, 中央にテーブルあった。廊下は, 非常にきたなかった。(永野)
- ・自分で言えば, 「きれい」とはいえない程度。他人が見れば, きたないと言うかも。(持田)

一寮の食事はどんな? (名物の何とか定食とか, 食べたことなし, 等)

回答:

- ・特に印象に残るものはないが, ご飯だけは食べ放題だった。北野田での下宿は時々美味しいものが出た。(増田)
- ・まずまずの食事であったが, 夏休みなどの休暇中に残っていたら, 釣ったらすぐ捨てる「てんこち」の煮物が出てきたのでびっくりしたこととか, 田んぼにいる「えびがに」のようなものが出てきてひどいなと思った。(安井)
- ・数種類の繰り返し(例: 日曜カレーライス)。勿論美味かった食事の記憶なし。(中野)
- ・朝, 味噌汁のみ。遅れて食堂に行った場合, 汁のみ, 中身無し。(永野)
- ・「個人下宿」の方が「学生アパート」より多少は良かったように記憶する。(持田)

一寮長や下宿の管理人のかたはどんな人だった?

回答: 日の出荘の管理人は田舎のおっさんとお婆さん, 食事もおな一杯食べさせれば良いという感じ。北野田の下宿のお婆さんは後家さんで, 食事も部屋に運んできたり, 洗濯をしてもらったり, いろいろお世話になった。(増田)

- ・そんな人はいなかった。(安井)
- ・もと左官屋のオッサン。一応「学生さん」として尊敬していた様子。(中野)

・「個人下宿」の方は多少面倒味がよく、「家庭教師」のアルバイトを紹介して頂いたこともある。「学生アパート」の方は初仕事のように、段々と日が経つにつれ食事の質も落ちだし、細かい人のように思う(持田)

一寮での集団生活の規則等について (正規の規則, 闇の掟, 等々)

回答: 自由奔放であった(学生下宿)(安井).

一夜の生態系 (娯楽, 個人的宴会や歓迎会での実態, 等々)

回答:

・とにかくお金が無かったため, 夜遊びはほとんど無かった. 先輩が時々お酒を買ってきて部屋で飲むぐらい. (増田)

・コンペと称して行った全員の下宿での飲み会は楽しかった. しょっちゅうマージャンをしたりそのあと安酒で飲み会をしたりしていた. フーゼル油の混じった酒が一般的であったように思う. (安井)

・一部の住人はマージャンに熱中, 過熱し過ぎ単位取得出来ずご両親が来られ, 転居させられた例もある. 船舶工学科メンバーは全て聖人君子ナリ. (中野)

・北のピヤホール「ミュンヘン」とお好み焼き店(稲垣)

・さきだつ物がなかつたので, 夜遊びはあまり経験なし. 娯楽としては「テレビ」が大半. たまにアパートの同僚に「マージャン」に誘われる. 「堺東」の下宿時には, 先輩に紹介してもらい「ダンス」を習いに通った. (持田)

・北中君に通天閣界隈のストリップ小屋に連れて行って貰ったことが懐しい. (日比)

●学食・生協など「食」について● (理由もコメント下さい)

一学食で好んで食べていたメニューと価格 (例: トンチカツ, 等々)

回答: カレーライス, うどん(橋本)(寺本)(持田)(中野)

理由: 多分安さとまあまあの味? (橋本), 「安さ」がなにより. たまに定食を食べるのが楽しみ. (寺本)(中野)

回答: ランチ(堀江)

理由: 安く栄養バランスが良かったから(堀江)

回答: 肉うどんとカレー (須藤)

理由: 味はともかくとして好きであったことと値段が手ごろ. うどんは今でも昼食に良く食べている. (須藤)

回答: 鯨カツ定食(大城)

理由: ソースの味がおいしかった. (大城)

回答: お金がある内はサンドペーパーの様なトンカツ. なくなるとメロンパンと素うどんのセットメニュー. 結構イケタ. (稲垣)

一生協喫茶(「セリーゼ」)で食べていたメニューと価格 (例: ピカタ, 等々)

回答: セリーゼは知らない. (橋本)

一学外ではどこの食堂・喫茶店に良く行っていた? (例: アトラス, 等々)

回答: ロゴス? (橋本), 食堂「ロゴス」(中野), 時々だが利用したのが「アルペン」(学校の西隣・昔の通用門横)と

「ロゴス」(昔の正門前), 難波の「喜楽」(部活のコンパでよく利用)(須藤)

ー上記食堂・喫茶店のメニューと価格は？

回答:心齋橋そごうの近くのコーヒー専門店. 店名は忘れた. 80 円位だったと思う. (稲垣)

ーその他 (過去を思い出し, フリーに記述)

記述:とにかくお金が無くて常にお腹を空かしていた気がする. 時々難波に出たときに食べる特大のカツ丼と, 北野田のラーメン屋で10円プラスで2つ玉のラーメンが食べられたのが良い思い出です. (増田)

・「食」には執着が少ないためかほとんど記憶がありません. いつ頃だったか(2年生の冬)食堂が火事になり電話交換室に燃え広がった. 電話交換室に駆けつけて交換台等運び出そうとしたが, 全く動かせなかった. 食堂にとってかえして寺本兄とテーブル1台をやっと運び出した. 全焼した食堂の側にテーブル1台, 何だかミスマッチを感じた記憶がある. (佐伯) (寺本)
・コーヒーを飲むくらいならうどんかビールの方が良いと思っていた. (安井)

●「娯楽」について● (理由もコメント下さい)

ーどのような娯楽を良くやった? (麻雀, ビリヤード, ボーリング, パチンコ, 合コン等々)

回答:ソフトボール, 野球, 将棋(橋本), 囲碁・マーじゃん(堀江) (稲垣), 下宿でのマーじゃん, 飲み会(安井), ソフトボール・野球・魚釣り(中野), パチンコ(大城), 囲碁・ソフトボール. YWCA のダンス教室にクラスの仲間と参加(当時学生主催のダンスパーティがよく開催され, よくパー券を売らされていた). 風速40m(?)の台風襲来をものともせず出席した猛者がおり負けたと思った. 宝荘へ寄せてもらったのマーじゃん. (須藤)

・麻雀(アパートの同僚或いは同期生達と時折各下宿にて), パチンコ(堺東下宿時, 帰校途中, 大好きな音楽に誘われ, ついフラフラ) (持田), ウースターソースをジャブジャブにかけた焼きそばとピーカン(缶入りピース)があって, マーじゃんをやっていたらこれぞ至福の時であった. (稲垣)

ーその娯楽場のなまえは?それはどのあたり? (例:雀荘 xxx)

回答:学内(橋本), ・整理整頓されているかのような 友人の下宿屋(堀江), ・学校の近く. 名前は忘れたが普通の壊れかけの家だった(稲垣), ・学校のグラウンド, 周辺の池. (中野),

・難波周辺(大城)

ー良く行った大学周辺の飲み屋はどこ?場所は? (例:加勢膳)

回答:学校から駅までの途中で姉と妹がいる酒屋での立ち飲み. 胸が小さく尻が大きい娘とかわいい娘がいたように思う. (安井)

ーその他 (過去を思い出し, フリーに記述)

記述:

・娯楽としては, テニスを始めたのと, 製図室の囲碁, 近くの雀荘でのマーじゃん, ギターを買って「禁じられた遊び」「第3の男」だけを練習したのを覚えている. 4回生になって何人かと一緒にYWCAでダンスを習ったのも良い思い出. ここで初めてガールフレンドが出来た. 彼女は今何をしていることやら. (増田)

・遠距離通学のため麻雀はほとんどやっていない. 日比兄に誘われてYWCA等でフォークダンスを教えて貰った. (佐伯)

・鮎を養殖している池へ魚釣りに行き, 管理のお兄さんに見つかり御用となった. 下宿から借用したバケツを没収され, なけ

なしの小遣いから弁償した。(中野)

・下宿住まいによるビタミン C 不足解消のため、闇夜に学校近くのトマト畑に出かけ数個失敬した。暗闇の中で手当たり次第に大きなものをもぎって帰宿したが、全て真っ青な未熟品であり失望した。(数日後赤く熟れるのを待って美味しく頂きましたのでご安心方！)(中野)

・英会話教室とダンス教室。どちらもモノにならなかったが懐かしい。ダンス教室では少々気になる子がいたが、お袋が「女の子は骨盤がバンとはったのが一番」と常々云っていたので諦めた。(稲垣)

・その①：サイクリング 四国一周や紀伊半島一周などサイクリングの経験があり、府大船舶に入って、大阪女子大生を誘い自転車振興会から自転車を借りて同好会的にサイクリングを開催した。熱中し過ぎて体を壊し(TB)止めたので同好会も消滅したが、その後後輩に聞いたところ、翌年か翌々年に正式なクラブが創立されたようだ。現在もあるか否か知らないが、私は影の創始者だったかも？

その②：フォークダンス 体を壊したが医者への進めもあり健康管理のためフォークダンスに熱中しました。お陰で休学することなく、就職も理解があり回復出来た。大阪府立体育館やYWCA や生野区のサークル活動など、パーティーに100回以上参加した。大阪市立大学は女学生も多くフォークダンスが盛んで、少々羨ましかったこと覚えている。

その③：社交ダンス フォークダンスをやっていた頃、YWCA で社交ダンス講習会があり皆さんを誘ったことがある。皆さん覚えてますかね～。

その④：ワンダーフォーゲル 登山は危険であり親不孝だと考えていたので全く興味がなかったが、ワングルは清岡君に連れて行ってもらった。美ヶ原は楽しい思い出です。氏は今でも活動中で、今でも羨ましいな～と思っている。(以上日比)

・友人の下宿で度々酒を飲んでワイワイやっていた。酒は2級。つまみは何故か冬も夏も湯豆腐。音楽は大橋君の部屋ではトリオロスパンチョス、安井君の部屋ではマヒナスターズがこれまた何故か年中かかっていた。日本シリーズで西鉄が巨人に3連敗後4連勝して劇的な逆転優勝した第7戦を学校近くの薄汚い食堂でお好み焼きでビールを飲みながら観戦した。まだ白黒テレビだったかな。巨人が大量リードされた終盤に長嶋がやけくそのようにランニングホームランを打った。西鉄の稲尾投手はずばらしかった。(磯川)

●「アルバイト」について●

—どのようなアルバイトをしていたか？(例:家庭教師, 交通量調査, 等々)

・圧倒的に家庭教師が多い。変わったところでは百貨店配達, 鉄工所補助作業(橋本)

世論調査(佐伯), ジャム工場建設現場, 造船所での重心計算(寺本), 家業手伝い(大城)

・船舶研究所の設計手伝い(今は亡き杉本先輩のはからいで依頼を受け夏休みに同級生4~5名で参加。バイト料をもらい船舶算法の実践が出来て楽しかった)。(須藤)(持田)

・名村造船(川筋)で北中君と完成図の作成のアルバイトをしました。千種さんが活躍されており、大変戦力になったものと自負しています。(日比)

—バイト料は？

回答:家庭教師:3千円/月 から5千円, 中には夜食が出たのが嬉しかった(増田), 思い出せない。一度パチンコをやってみたくて帰りにやったところ1日のバイト料が飛んでしまいガックリした記憶あり。(須藤), 忘れた。奥さんが色っぽくて良かった。

(稲垣), 正確には覚えてないが, 一夏1~2万円程度? 月給 13, 800 円の時代だったので, 結構なものだったと思う。(日比)

ーその他 (過去を思い出し, フリーに記述)

記述:

- ・宝塚映画のエキストラ(加東大介が主演の時代劇)で武庫川の河原でチャンチャンばらばらやったこと. 待ち時間長く, 1 日ばかりだが日当は良かった(昼食付, 多分 1, 200 円?) (堀江)
- ・2 年生になる春休み, ジャム工場の建設現場で10日ほど肉体労働のバイトをした. 4, 50キロ? あるセメント袋をトラックから所定の場所まで何十回と運んだ. その重いこと今も右肩が変になっている. 足場作りのため針金を「しの」で締めたのもいい思い出. バイト料は1日800円だった. 就職して造船現場に配属になり, 現場の仕事の辛さを少しだけ理解できたと思っている。(寺本)
- ・自動車部が埃を巻き上げながらポンコツ車を構内で転がしていた光景が忘れられない. 木が殆ど無く, 砂漠の様な構内であった. 通路か空き地か運動場かはっきりしない所でよくソフトボールやりました。(稲垣)

●その他記憶にある学生生活の思い出を以下に自由に記述下さい●

- ・このアンケートをみると我々の時代がさらに遠いものに思える. 作成された方も我々の時代は想像出来ないのでしょう. 自分自身ではついこの間だったような気がする。(橋本)(中野)
- ・宝塚から通学していたため時間(約2時間)がなく 真面目な学生生活を送っていた。(寺本, 堀江) 週末も教会生活で忙しくしていた. 年に2回ぐらいは清岡君の企画で 大峰山, 金剛山など山登りや美ヶ原の高原でのキャンピングなどを思い出す。(堀江)
- ・ともかく 20 名のクラスで 4 年間常に一緒にいた気がする. 最後に九州に卒業旅行に行ったのも良い思い出。(増田)
- ・造船所見学に続いての九州一周旅行は最高に楽しかった。(佐伯)
- ・ロゴスとか言う学校前の文房具屋で画用紙を買いに行っていたが, 店の親父がえらそうにサイズは A の何とか聞いて, これ位の画用紙やと言ったら人を馬鹿にしよった事がある(安井)
- ・文武両道をモットーとして剣道部活動を行っていた. 週2日放課後の練習と毎週土曜日の午後に師範のおられた守口市まで防具を担ぎ約2時間かけて(南海・国鉄阪和線・市電利用)通った練習のお陰で全国大会出場に繋がったこと, 及び年2回の合宿。(須藤)
- ・パチンコで有り金を使い果たして難波から家(新大阪駅付近)まで歩いて帰ったのが今でも思いでに残っています。(大城)
- ・クラブ活動も盛んだった. 空手部 大城君, 剣道部 須藤君, ラグビー部 磯川君, 田村君(3 年の夏鎖骨を骨折して入院した)自動車部 日比君, テニス部 増田君, ワンダーフォーゲル部 清岡君, 文科系ではグリークラブ 大橋, 寺本, 増田, 持田 ハワイアンギタークラブ 安井君またクラス内私設クラブでは囲碁部 堀江君, 増田君, 須藤君等が挙げられる.
- ・昭和 35 年は日米間の安保改定でいわゆる安保反対闘争が全国の大学で燃え盛り, 同 6 月 15 日 クラス討議の末, 学生自治会統一行動としてクラス有志がデモに参加. 御堂筋をデモ行進した.(この日東京では国会正門付近で樺美智子さんが警察との衝突で死亡するという痛ましい事件が発生している.) 私はデモには初めて参加. デモの小隊の先頭になり, 大阪城公園内の道をデモ行進中先隊がジグザグを始めたが, デモは整然と行うものと判断し, ジグザグには応じなかった. 私の隊列は実に整然としていたように思う. それにしても疲れるものだった. 当時の竹内学生自治会長はその後山で遭難された.
- ・休講になると 待ってましたとばかり, 農学部脇のグラウンドでソフトボールに興じ, 土曜日などは, クラス全体で近郊へのハイ

キング。夏休みには琵琶湖へキャンプに行き、某女子大生と交流するなど楽しいひとときを過ごした。K君などはクラスを代表して文通したのだがいつしか途切れてしまったとか。また、下校時は難波や梅田でダンスパーティーに出たり、寿司の皿を何枚も重ねたり、YMCAで英会話を習ったり、結構学生生活をエンジョイした。(以上寺本)

・何か一つぐらいクラブ活動しなくてはと思い、音楽は好きだけれど、音程が悪いので、少しでも矯正できたらと、思い切って「グリークラブ」に応募し、「バリトン」として入部した。特に「同志社」や「関西学院」の「コーラス」を聴き、非常に魅力を感じ、感激しておりましたが、一方本当に皆さんについていけるのかいささか不安だったが、最後まで続けることが出来、良い思い出になった。この経験のためか、その後は、聞くのみにならず、飲んだ後は、「カラオケ」で、唄って楽しんでいる。(持田)

・クラブはラグビー部でした。馬鹿馬鹿しくもくだらなくてもそれでいて愉快的な思い出が数限りなくある。(磯川)

以上

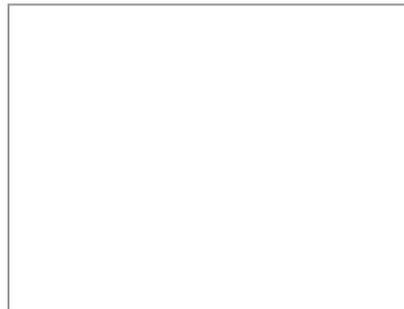


大阪府立大学全景 1962

注)タイガー計算機は会議室(工学部6号館206室)に2台ありました!

ガラス張りの戸棚(通称、宝箱)に大事に飾ってあります。

並んで、クジラもあります。



府立大学と私

塙 友雄（元学外講師）

1980年から、10年間以上、「特殊船」、「船舶特殊講義Ⅳ」の講義を担当した。毎年、後期授業が始まると週1日、4年次生に9時から正午まで、上記2科目の集中講義を行った。学科名は旧カリキュラムの「船舶工学科」、「船舶工学」と言う言葉がまだ華やかに世間に通用するよき時代であった。

それまでにも「関西造船協会の委員会活動」、「造船所の船型研究」の仕事を通して、諸先生方にいろいろとお世話になっていたが、講義を受け持つようになってから菱田敏男、田口賢士、田中紀男、姫野洋司の諸先生との付き合いが親密になった。先生方と交わしたいろいろな話、特に田中紀男先生の饒舌と毒舌は深く豊かな思出となって脳裏に残っている。また細田龍介、奥野武俊、池田良穂、平野進の先生方もより親しくなり、永井順一さん、中村絹さんには講義毎に一方ならずお世話になった。講師退任後も、中村さんから連絡を受け、平野さん、外山嵩さん方々と忘年会を楽しんだりした。平野先生には双船尾船の水槽試験をお願いして以来、意気投合し、後年は奥様共々お付き合いした。そんな訳で、故平野先生のご冥福を心からお祈りする。

当初、「特殊船の定義」について田口先生から「タンカーは普通船、それ以外が特殊船」と聞かされ、私は、「府立大学流」で云うと特殊船設計の専門家であった訳である。高度成長期、日本造船界は原油タンカーの巨大化、工作技術革新と多量建造で社会に貢献してきたものの、高付加価値船の開発では先進国に遅れをとった。だから、「タンカーのみを普通扱いし他を特殊扱いする」ようでは、技術知識の範囲を自ら狭めるのではないかと苦慮してフェリー、コンテ

ナ船その他、先進性のある講義に力を入れたのであった。

「船舶特殊講義Ⅳ」は、講師が得意とする実務経験を軸にテーマを選べばよいので、自分の得意な船型設計からアップデートな経験談を取上げて講義した。創造的な発想力を養うために、そして片端な船を造らないように「人間と船の歴史」をテーマにしたりもした。

講義では、居眠りする者も多かったけれど、熱心に聞いている学生もいた。かつて阪大の故野本謙作先生の言葉「一人でも熱心な学生が居れば、その者のために応える」を思出して講義した。そして永年の講義は、自分自身の技術力向上に裨益したようである。私は今でも船型設計の第一線に立っている。近頃は、船型設計に関する重要な判断を、頭で考えるのではなく、潜在意識の中で決めることができるようになった。講義への努力が、自身の研鑽にも役立つ証しと思って感謝している。

冬の寒い日は早朝に中百舌鳥へ向かうのが辛いこともあった。ある期末試験の日の出来事であった。阪急電車で居眠りをしてしまい梅田で目が醒めて慌てて降りたが、学籍簿と試験問題の封筒を網棚に置かれた。すぐ気付いて引返したが、電車は既に発車し遠ざかって行った。試験問題を黒板に書いて事なきをえたが、学籍簿が無いと、学生出欠状況が不明となり採点の公平性が失われる。また、学籍簿が他人に渡ればプライバシーが犯される。心配したが幸いにも遺失物センターで無事回収できた。「大事な物を忘れちゃったね」と駅員から冷やかされたが、今では楽しい思出の一つである。

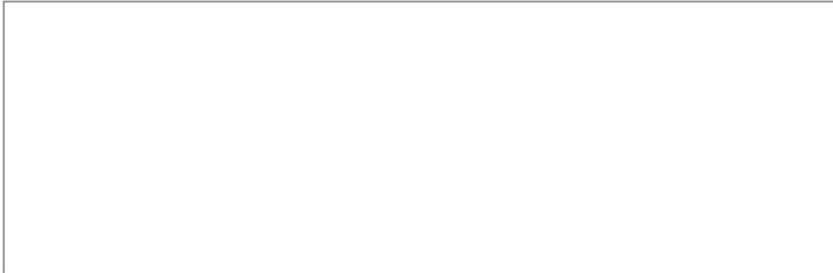
私は現在、海技大学校の非常勤講師をやらせていただいている。一昨年(2001年)秋、先輩の金田英彦さん(大学5期)から後継をやらないかというお話を頂き、海技大学校内の会議でもOKとなり決まったのである。金田さんの私との関係は、大学の先輩である上、川崎重工業 潜水艦設計部でも机を並べた仲だし、どちらも相前後して海洋科学技術センターへ出向して深海潜水技術の研究開発に取り組んだという、まことに深い縁であるので、お話があったとき、何はさておいてもやるべし、という気持が強く、自分の能力を深くかえりみることもせずに引き受けたのであった。聞くと金田さんの先代は岡村与一郎先生の由で、先生もまた我々には大変縁が深い。

海技大学校は、ご存知の同窓諸兄も多いと思うが、芦屋市にある独立行政法人で現役の海員に対して上級の海技資格取得支援のための再教育を行うほか、全国各地の海上技術学校(以前の海員学校)卒業生のためのコース、通信教育コース、JICAと協同の途上国の海事関係者の教育コース等も実施している。私の担当は、これらのコースの学生に、造船学、船舶工学または造船工学と題して、船舶の一般概要と船体強度、船体構造等の基礎的事項について講義することである。教科書は野原威男先生の航海造船学(1)である。講義の準備をするため、この教科書をザッと読んだ感想は、海技を学ぶ

学生に船舶を説明するものとしては大変良いが、モデルとして取り上げている船は少し古いなど感じた。リベット接合、傾斜船首、クルーザー船尾、シヤー、キャンバー等、1960年代の船である。むかし、私達が岩佐英介先生の鋼船構造(2)の講義を受けた頃のことを思い出した。あのころはもっと古い船をモデルにしており、直立船首、楕円ナックル船尾でタンブルホームもあったと記憶する。岩佐先生が外板リベット接合部のメタルタッチによる水密と、エヤチズルによるコーキングの効果について手指によるジェスチャーも交えて力説されたのをなつかしく思い出すが、同じ思い出をお持ちの方々もおられるのではないかとと思う。

しかし、他の教科書を調べたりいろいろ考えたりした結果、やはり野原先生の教科書を使用するのがよいと決心した。それは次のように考えたからである。船は永い歴史の中で発達し、変遷を経てきたものである。それにともない船体構造も工夫が重ねられ、多種多様なものがある。それをアノ船はアノように、コノ船はコノようになっていると数多く説明するよりも、学生に、船やその構造の基礎をなるべく簡単に、わかりやすく説明することが大切である。そのためには現在のようになった船の進化過程の概要を説明したうえで、現在のように進化・分化する一歩手前というか、少しむかしの船をモデルとして説明するのが効果的と考えたからである。岩佐先生や野原先生も同じお考えがあったのではないかと勝手に推察している。

実際の講義では、教科書に入る前に、図1のように黒板に描き、つぎのように説明することとした。



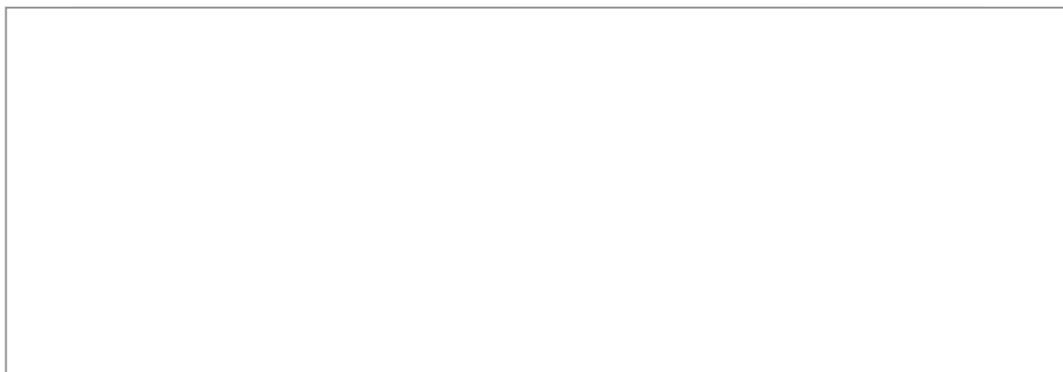
<図1 船体形状の進化>

図1において、Aはいわゆる汽船が出現した頃の船で、例えば映画にもなったTITANIC号はこれである。直立船首、楕円船尾で船尾には垂直な舵柱があり、垂線間長の垂線もわかりやすい。Bは少し進歩したもので、堪航性を良くするため、傾斜船首、クルーザー船尾が出現した。Cは現代の船で球状船首、トランサム船尾で、学生諸君もよく見かける船である。Aは古すぎるが、とはいえ、Cは現在も進化の最中で、まだ固まったものとは言い難い。そこで講義のためのモデルとして、これらの中間のBを取り上げると説明するのである。そしてBの具体例として1958年竣工のニューヨーク定期航路貨物船、ねばだ丸の一般配置図(3)を示して少し説明をする。この船は川崎重工が川崎汽船向けに建造した船で、当時のニューヨーク定期航路には長さ145mが一般的であった中、長さ150mとし、主機は他より低馬力の11, 500PSでありながら良く走り、この航路のブルーリボンを取った優秀船である。そして私が川崎を志願した動機となった船である等と余談をし、ついでに実際に私が配属されたのは、志願の商船とは異なり潜水艦設計部で残念であった等と脱線話をすると、私には思い出が尽きず、学生も面白そうに聞いているが、時間をオーバーするので注意が必要。

船体強度の説明の場合も、教科書に入る前に説明を加えることとした。強度を考えるには表裏一体のこととして破損を想定しそれを未然に防ぐための強度を考えることになる。例えば縦強度については、船体は貨物を積み、浮力を受け、波にも

まれる等してホギング、サギングの荷重を受け、もしそれが過大になれば船体が折れる恐れがある。破損とはそんなに簡単な話ではなく、また船舶乗員になろうとする学生にこのような話は縁起でも無いという思いもあるが、そこは割り切って、多少乱暴ではあっても破損現象の概略とそれを防止するという視点を強調することは大切だと思う。教室での感触もこの方が切実感を持って熱心に聴いてくれるように感じられる。長い船体が折れる(恐れがある)ということから梁の話に入って行き、船体は中空箱形梁としてモデル化する事を説明する。梁の導入が出来れば、教科書を読みながら荷重曲線、SFD、BMD、中立軸、 I/y 等について説明する。この話の内容はクラスのレベルや時間の制約に応じて掘り下げの程度を加減する。梁の基礎知識は、船体縦強度だけでなく、学生が今後実際に出くわすと思われる局所的な部材損傷の原因検討や応急修理のための概略のあたりをつけるのに有用だと思うので是非ともよく理解してほしいところである。

船体構造の縦式構造、横式構造、混合式構造については教科書の挿絵のように、各構造様式についての船体の切断透視図がいきなり出てくると、複雑な図と多数の部材名称に学生は圧倒されてよくないようである。船体を中空箱形梁とみなすことは説明が済んでいるので、これのパネル、すなわち甲板や外板を補強する骨材の配置としてスケッチによる説明をすることとした。(図2)



<図2 船体の骨配置>

図2において、船体(A)を中空箱形梁とみなす(B)。(B)の上下左右のパネルはペコペコせぬよう骨を入れる必要がある。骨を横方向に置くのが横式構造(C)であり、骨を縦方向に置くのが縦式構造(D)である。縦式構造は骨も縦強度に寄与して都合がよいが、ところどころに節が必要(横隔壁や桁)で、桁の倉内突出のためバール貨物は積みにくい。液体貨物等ならば問題ないのでタンカー等は縦式構造を用いている。ところがここにうまい工夫があり縦強度上重要な上のパネル(甲板)と下のパネル(船底)は縦式とし、左右のパネル(船側)は倉内突出の少ない横式とした混合式が考え出された(E)。先に示した、ねばだ丸は混合式のはしりだと説明する。実際は、ねばだ丸より1タイプ前の、昭川丸から混合式が採用されている。(4) このように、いったん船体全体を見た上だと教科書の図や部材名称、配置も理解しやすいのではないかと思う。これらの話の内容は造船関係者にとってはアタリマエとも言えるが、講義の要諦はアタリマエの事となるべくわかりやすく学生に伝えることである。船の運航に携わろうとする人達が船体構造の基礎知識を、その発達を見ながら、興味を持って主体的に理解してほしいと思うのである。ただし学生の将来の実務のためには、先述のように話をわかりやすくするために割愛した、多種多様な船とその構造について、アノ船はアノように、コノ船はコノようになっているという話もまた重要であり、私の講義ではモデル化した基礎事項しか述べられなかったが、それをベースにして学生諸君は、乗船した船の構造を観察し、理解してほしいという注意喚起を忘れてはならないと思う。また講義中折にふれ、最近のトピックスを話すことも大切と思う。ところで、このための参考書として、高城清技術士の書かれた教科書、海技士のための船体構造(5)は、大変有益と思う。これは設計実務に従事された著者が種々の船体構造を具体的に、多数の図を用いて述べておられ、海技士のみならず船舶工学を学

ぶ海洋システム工学科学生にとっても参考になると思う。

図1や図2のスケッチを黒板に描きながら説明するのであるが、スケッチは正確さよりもわかりやすいことに重点を置き、グイグイ描きながら喋ると調子が出てくる。こちらが調子に乗ってないと話は聞き手に伝わらないと思う。ただしそれは必要条件ではあっても十分条件ではなく、こちらの調子が良ければ話が伝わるかというところは限らぬところが悩ましい。学生の表情をうかがいながら話を進めるのであるが、これまた私には大層むずかしい。

こんな調子で一学期が終わりに近づいたある日、講義も終わって非常勤講師室で一服していると、教務委員の山本一誠助教授がこられて、来学期からは船舶整備の講義もやってほしいとのことである。船舶整備について私は素人、学生の方が良く知っているのではないかと思ひ、そう言うと、船舶法規と船舶検査のことを話してほしいと云われる。ともかく引き受けて、下調べを始めたら、むかしは、4年毎の定検で、年毎に、定検、2中、1中、2中、定検の繰り返しで単純だったのに、いまは改正されて定検は5年毎となり、3中(ドック検査)があったりしてずいぶん複雑になっている。改めて勉強しなければならない。

参考文献

- (1) 野原威男;航海造船学,海文堂 1974
- (2) 岩佐英介;鋼船構造,海文堂 1955
- (3) 川崎重工業造船設計部;高速貨物船ねばだ丸について,船の科学 1958-10
- (4) 川崎重工業造船設計部;貨物船昭川丸について,船舶 1954-3
- (5) 高城清;海技士のための船体構造,海文堂 1984

<「鷗朋」第7号への原稿募集>

■自由なテーマでご投稿下さい■

- ・原稿は、郵便(原稿用紙やフロッピーディスク)、ファックス、電子メールなどでお送りください。
- ・分量については、柔軟に対応します。写真やイラストつきの原稿も大歓迎です！

宛先 〒599-8531 堺市学園町 1-1 大阪府立大学工学部 海洋システム工学科気付 鷗朋会事務局
TEL/FAX: 072-254-9914 E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

グラスゴーから...元気にしています

大学41期 片山 徹

この春から約一年間、英国(United Kingdom)、グラスゴー(Glasgow)にあるストラスクライド大学(University of Strathclyde)船舶海洋工学科(Department of Naval Architects & Marine Engineering)に、EU-project の特別研究員(Research Fellow)として着任してから約4ヶ月が経ちました。皆様におかれましてはご機嫌いかがでしょうか?本紙面をお借りして、健康に暮らしている旨を報告させていただくと共に、現在私が滞在している都市と大学について簡単な紹介させていただきます。

スコットランド最大の人口(約75万人)を抱える大都市グラスゴーは、英国の北部のスコットランド(Scotland)の南西部を流れるクライド川(River Clyde)の岸辺に位置し、スコットランドにおける貿易と重工業(製鉄、造船)の街として発展しました。このクライド川沿いの造船所で建造された有名な船には三大Queen と呼ばれる Queen Elizabeth, Queen Mary, Queen Elizabeth 2 があります。クライド川と造船の歴史については、交通博物館(Transport Museum)内2階に特設コーナーがあり、模型船なども飾られています。工業都市グラスゴーは、英国の産業の衰退と共に一度は活気をなくしたものの、19世紀に大富豪によって建てられた建築物および文化的遺産が多く存在し、ここ10年の間に工業都市としてのその煤けたイメージを、文化・芸術の都へと一身させました。町中には、博物館やギャラリーがあふれ、特に町の東にはグラスゴー大聖堂(Glasgow Cathedral)を初めとする古い建物が保存されており、建築家マッキントッシュ(C. R. Mackintosh)が設計した建物やビクトリア朝様式の石造りの建造物を見ることが出来ます。

私の現在滞在するストラスクライド大学は、1796年に当時グラスゴー大学自然科学の教授であったジョン・アンダーソン氏(John Anderson)によって、「性別や階級に係わらず有益な学習が出来る場所」として Anderson's Institution という名で創設され、1828年に Anderson's University に改名しました。産業の中心都市として栄えたグラスゴーにおいて、工業に関

する専門教育と研究を中心として拡大していったこの大学は、1887年に Glasgow and West of Scotland Technical College となり、1912年に Royal Technical College、1956年に Royal College of Science and Technology へと改名の後1964年の Scottish College of Commerce との合併を経て、同年現在のストラスクライド大学になりました。現在この大学には Arts & Social Sciences, Engineering, Science の4学科に加え Strathclyde Business School を設置しています。この大学は、スコットランドにおいて有数の広大な敷地を持ち、二つのキャンパスを持っています。一つはグラスゴーの City Centre に位置し創設者の名にちなんだ John Anderson Campus (Arts & Social Sciences, Engineering, Science の3学科と Strathclyde Business School)、もう一つはグラスゴーの West End に位置する Jordanhill Campus (Education 学科)です。学部生 12300人、大学院生 7400人、スタッフ 3400人(研究教育関係 1300人)と非常に大所帯の大学です。

私の所属する学科は (Department of Naval Architecture and Marine Engineering) は、船舶工学科として 1882年に開設されました。現在この学科がある建物の名は Henry Dyer Building といいます。この名は、1873年から10年間、工部大学校(東大工学部の前身)の初代都検(教頭、実質の校長)を務めたヘンリー・ダイアー博士(Henry Dyer, 1848-1918)にちなんでつけられています。現在この学科は、

2001年8月にグラスゴー大学の船舶・海洋工学科との合併を経て、両大学によって共同運営されています。つまり学生は両大学の図書館などの様々な施設を自由に使うことが出来ます。教員および学生はストラスクライド大学内に研究室を持ち、大型実験施設としてはデニー水槽(Denny Tank:長さ100m, 幅7m, 水深2.7m, 最大曳航速度10m/s, 1882年に建てられた、最古の商用水槽で、博物館としても公開されている。大学の実験施設としては1989年から使用されている。), グラスゴー大学にあるHydro lab Experimental Towing Tank(長さ77m, 幅4.6m, 深さ2.7m, 浅海試験も可能)があります。なお、この学科には今年6月現在、教職員(Academic Staff)23名、学術訪問者(Academic Visitor)6名、特別研究員(Research Fellow)17名、研究助手(Research Assistant)9

人、実験技師(Technician)9名、大学院学生(Phd & MSc Student)22名、その他秘書等19名が属しています。

最後に... スコットランド中でも特にグラスゴーは大西洋からの温かい風をアイルランド(Ireland)に塞がれた後方に位置し、年中曇り空で霧雨が降る天候が普通ですが、今年の夏は例年とはまったく異なり、良い天気の日が続きました。おかげで、朝は6時ごろから夜は10時ごろまで外が明るく、温かく、ドライな日を満喫することが出来ました。これからは日に日に日照時間が短くなり、12月ごろには日の出が9時ごろ、日の入りが3時ごろになると聞いています。日本では、経験できないのでとても楽しみです。また、別の機会にどこかの紙面をお借りして、こちらでの生活についてご紹介できればと考えています。

鷗朋会メーリングリスト「kamome」のご案内

卒業生の皆様、仕事先で、また、お家で電子メールアドレスをお持ちになったら、早速、鷗朋会メーリングリスト kamome にご入会ください。

メーリングリストとは

特定の登録会員を対象とした、電子メールの配送システムです。

会員がそのメールアドレスに電子メールを送ると、登録した会員全員に電子メールが配送されます。

メールの表題には、特定の名称と通し番号が付けられます。

kamome について

これは、海洋システム工学教室の同窓会(鷗朋会)用のメーリングリストです。

会員は、現在148名程度。平均年齢は約40才(?) 同窓会員の動向、雑談、地区別同窓会の案内、外国旅行記、夫婦の対話など、気楽な話題で交流しています。

kamome の入会方法

下記のアドレス宛てに、メールを送ってください。

doso@marine.osakafu-u.ac.jp

※アドレスをお知らせ頂いた後、事務局にて手動で登録しております。

kamome に投稿するには

kamome@marine.osakafu-u.ac.jp 宛てに、適当な表題を付けてメールします。

すると、表題の前に続き番号が付けられて、kamome の member 全員に配送されます。

返信も同様です。

同期生用メーリングリストの設定

同期生でメーリングリストを持ちたいときは、教室のサーバーにそれを設定させて頂きます。鷗朋会事務局 までお申し込みください。

お問い合わせは、鷗朋会事務局まで...

E-mail: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

URL: <http://msweb.marine.osakafu-u.ac.jp/~web01/ob/>

日時:2002 年 6 月 24 日(火)18:00~20:50

場所:たかつガーデン 3 階ローズ

出席者:増田会長(大 10),定兼副会長(大 15),奥野副会長(大 17),炭田(造 2),保田(造 3),千種(造 4),外山(造 4),片岡(大 2),金田(大 5),岡本(大 5),山岡(大 7),大野(大 8),城野(大 8),松岡(大 9),磯川(大 10),岡田(大 12),小幡(大 12),杉山(大 12),出口(大 12),西田(大 17),岸(大 25),池田(大 35),大塚(大 35),有馬(大 37),山田(大 37),中谷(大 45), 奥村(大 46), 藤波(大 51)

以上 28 名(敬称略)

1. 開会

大塚会務担当理事より開会が宣言された。

2. 会長挨拶:増田会長より挨拶があった。また、奥野副会長より理事会後の田口先生叙勲祝賀会の案内があった。

3. 議長選出

大塚会務担当理事より定兼副会長が議長に推薦され、満場一致で選出された。

4. 議事:

(1) 報告事項

a) 平成 14 年度会計中間報告

・山田会計担当理事より資料に基づいて平成 14 年度の会計報告がなされた。

・会費納入率を評価するためには、口数ではなく人数で算出すべきであるとの意見があり、次回報告より改善することになった。

・会計報告には、予算も併記して欲しいとの意見が出され、併せて改善されることになった。

b) 全学・工学部同窓会報告

・岡田理事より資料に基づいて大阪府立大学(全学)同窓会および大阪府立大学工学部同窓会の理事会議事録について説明があった。

・創立 50 周年言己念募金事業には 2,100 万円強の募金があり、海洋システムエ学科および鷗朋会会員より 〇〇 万円程度(全体の 1/20)の貢献があったことが報告された。

・全学同窓会は、創立 60 周年記念誌の発行を目指して、写真等の資料収集をしているので、協力して欲しいと要請があった。

・全学同窓会や工学部同窓会の活動を知る機会が少ないので、鷗朋会の会誌等でも報告して欲しいとの要望があった。

c) 編集委員会報告

・岸編集担当理事より資料に基づいて編集委員会の活動報告がなされた。

・中谷編集理事より、発行作業が進められている『鷗朋会ニューズレター第 2 号』について概要報告があった。

・山田会計担当理事より、『ニューズレター』の発行が会費納入率の向上に寄与しているか否かは、もうしばらく様子を見る必要があると説明があった。

(2) 協議事項

a) 理事交代に関する件

・有馬会務担当理事より資料に基づいて理事の交代について提案があり、全会一致で承認された。

b) 新理事推薦に関する件

・有馬会務担当理事より資料に基づいて新理事の推薦があり、全会一致で承認された。

(3) その他

・奥野副会長より大学の再編、独法化(地方独立行政法人化)に関する現状報告がなされた。

・最近の大学を取り巻く環境の変化や社会情勢について、さまざまな意見交換があった。

5. 閉会

大塚会務担当理事より閉会が宣言された。

以上

平成 15 年度分会費納入のお願い

同窓会費をまだお送りいただいていない方はできるだけ早く同封の振込用紙にて納入下さいますようお願い申し上げます。(平成 15 年 8 月末日現在で未納の方には請求を同封しておりますのでご確認下さい。)

毎回催促がましくご請求申し上げ誠に心苦しいのですが、何分本会は皆様方からの会費のみで運営いたしております。なにとぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 14 年度会計報告書

(H.14.4.1-H.15.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,347,872	振込手数料	42,480
同窓会会費	1,622,000	通信費	364,250
理事会会費	27,000	役員費	696,600
利息	44	会議費	118,342
雑収入	10,100	事務費	69,393
		印刷費	375,127
		備品費	29,400
		雑費	0
小計	1,659,144	小計	1,695,592
		次期繰越	1,311,424
合計	3,007,016	合計	3,007,016

平成 15 年度会計予算案

(H.15.4.1-H.16.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,311,424	振込手数料	56,000
同窓会会費	1,600,000	通信費	400,000
理事会会費	50,000	役員費	677,200
		会議費	170,000
		事務費	60,000
		印刷費	380,000
		備品費	0
		雑費	3,000
		予備費	0
小計	1,650,000	小計	1,746,200
		次期繰越	1,215,224
合計	2,961,424	合計	2,961,424

会 計 監 査

大阪府立大学工学部

鷗朋会 殿

監事 江川 尚志

城野 隆史

平成 14 年度の同窓会会計につきまして、監査の結果、適正に管理運営されていることを確認いたしましたのでご報告いたします。

博士論文 (博士後期課程)

(指導教官)

- 佐野 淳 (岡田) : 移動体の衝突に対する構造物の応答と強度に関する研究
 高橋 滋彦 (細田) : 国際港湾をめぐる開発計画の変遷と展望に関する研究
 呉 念東 (奥野) : 沿岸域環境モニタリング手法の開発に関する研究

修士論文 (博士前期課程)

(指導教官)

- 会田 晋介 (奥野) : 沿岸海域における流場の画像計測に関する研究
 荒井 康介 (馬場) : 放射状に広がる海洋重力流の挙動に関する基礎的研究
 新井 励 (溝畑) : 沿岸域における栄養塩の連続計測に関する基礎的研究
 安藤 準 (細田) : 表情による感情・心理状態の計測・評価に関する研究
 大西 暢之 (姫野) : フルスケール自航シミュレーターの構築に関する研究
 岡本 公一 (細田) : 大阪湾に流入する河川からの汚濁負荷量の要因分析
 奥坂 泰弘 (姫野) : 実船スケールでの摩擦抵抗値の再検討
 加茂 知子 (池田) : 浸水中間段階における損傷船舶の安全性に関する研究
 塩谷 淳 (大塚) : 生態系モデリングによる人工潟湖の水質浄化効果予測
 杉本 創 (姫野) : CAD・CFD・最適化手法を統合した船型設計システムの開発
 高橋 努 (岸) : 格子 Boltzmann 法による粘弾性流体の解析
 坪井 雅人 (岸) : ホバークラフトという空間—内部空間からのデザイン—
 手嶋 晃 (池田) : 高速滑走艇の斜航時横ポーポイジングに関する基礎的研究
 寺田 芙美 (奥野) : 主成分分析を用いた大阪湾の環境特性に関する研究
 内藤 直樹 (岡田) : 浮体構造の流力弾性挙動に及ぼす空気層の影響に関する研究
 中野 徹 (岡田) : 緊張係留式没水平板の流力弾性挙動に関する研究
 西澤 智 (正岡) : 初期不整を有する防撓板の圧壊強度推定式の構築と信頼性設計への適用に関する研究
 松本 吉倫 (大塚) : 海洋深層水大規模取水—分配システムの研究— 経済性評価と CO₂排出量を指標とした LCA—
 山崎 祥司 (大塚) : 海洋深層水放流海域における藻場生態系モデルの構築
 山本 和由 (馬場) : 海洋環境シミュレーションのための拡散凝集モデルの基礎的研究
 林 豪 (姫野) : マルチブロック NS/RaNS 法を用いたアメリカ杯レース艇のダウンウインドセールの性能評価に関する研究
 坂口 陽一郎 (田原) : 平板境界層に置かれた円柱突起まわりの流場と熱伝導に関する数値計算的研究

新井 励 君は
 海洋システム工学分野
 優秀論文賞 を受賞

卒業研究テーマ

(指導教官)

- 大船 悠 (姫野) : SQP法を用いたコンテナ船の最適主要目の考察
- 桂樹 哲雄 (馬場) : 重力流の発達における自己相似段階への遷移に関する研究
- 金森 泰昌 (奥野) : 海色の分光特性を利用した画像計測 ー時間変動特性の検討ー
- 川又 伸一 (岡田) : 小型水槽を用いたエアークッション型浮体の波浪中弾性挙動に関する実験的研究
- 更井 順則 (大塚) : 室戸岬沿岸藻場にかかる魚類による食圧の推定
- 塩崎 拓平 (奥野) : 西部熱帯太平洋海域における植物プランクトンの鉛直分布特性
- 柴田 真夫 (池田) : 急潮流中スパーブイの不安定運動低減に関する研究
- 申 東燮 (細田) : 大阪湾沿岸域に住む人々の環境意識調査とその分析
- 鈴木 宏始 (池田) : 超小型滑走艇模型を用いた抵抗試験法の開発
- 畳谷 龍人 (田原) : マルチブロック格子を用いたセールシステムの格子生成とCFD解析
ーDownwindセールへのGrid生成と格子評価ー
- 谷本 望 (奥野) : オロイド翼まわりの流れに関する実験
- 橋本 卓 (姫野) : CFDを用いたStealth Destroyer周りの流場計算及び不確かさ解析
- 畠山 薫 (岸) : 新造船発注オプションの制度設計
- 福島 寛司 (岡田) : 緊張係留式没水平板の波浪中弾性挙動に関する実験的研究
- 丸谷 潤一 (岡田) : 極限波浪中における緊張係留式海中トンネル構造体の強度評価に関する研究
- 見方 直昭 (大塚) : 螺旋状突起物をつけた円柱に働く流体力に関する実験的研究
- 水口 直 (姫野) : 波浪中の推進性能と船体形状の最適化問題の考察
- 南出 和都 (奥野) : 沿岸域生態系モデルの数値シミュレーション ーMECモデルを使った計算ー
- 安田 弘文 (姫野) : 遺伝的アルゴリズムの改良と船型設計問題への応用
- 湯本 譲司 (岸) : 粘弾性流体の挙動に関する実験的研究
- 横井 義光 (正岡) : 複合荷重を受ける海中パイプラインの崩壊挙動に関する研究
- 渡辺 皇介 (細田) : 多変量解析によるヒューマン・ファクターと乗り物酔いの関連 ー酔い耐性アンケートの結果よりー
- 仲井 隆良 (田原) : マルチブロック法を用いた車体周りの流場計算
- 中谷 聡 (岸) : 緑藻の光合成への超音波ストレスの影響に関する研究 ー実験計画法によるアプローチー
- 松井 友寿 (正岡) : 3段3重試験における鋼材の引張疲労過程の追跡
ー温度およびヒステリシス・エネルギー挙動と疲労寿命の関係についてー
- 池田 岳平 (細田) : 脳機能画像計測・解析システムの船舶における利用可能性に関する調査
- 宇根岡 亨 (大塚) : マナマコを用いた底質改善に関する研究

塩崎 拓平 君は
日本造船学会奨学褒賞
を受賞

南出 和都 君は
日本造船学会奨学褒賞
および本学学業優秀賞
(白鷺賞)を受賞

松井 友寿 君は
海洋システム工学科賞
を受賞